

コシヤマインの戦いを征し、 蝦夷地統治者としての立場を築いた武田信廣

勝山館跡

1470年頃から1514年まで政治・軍事・経済の中心だった勝山館跡

その信廣が築いた『勝山館跡』

この時にもたらされた平和と安定が、蝦夷地に和人文化を定着させ、
様々な地域が発展していくきっかけとなりました。



勝山館内で発見されたアイヌの墓、信廣統治下では館内で共に生活していた。



現代に残る御徒士行列は、松前藩が先祖の地である上之国を参った名残



上ノ国八幡宮の本殿は、元々勝山館跡の館神八幡宮にありました



交易拠点の名残として、中国や琉球、ベトナムの品々が発掘されています。

この後、1514年に信廣の息子・光廣が拠点を松前に移し、後の松前藩として発展していくこととなりますが、それまで上之国は蝦夷地の政治・軍事・経済の中心地として存在していました。

町民憲章にもある言葉『北海道夜明けの地』には、こうした歴史的意味合いがあり、私たちはこれらの祖先の偉業を受け継いで現代の上ノ国町に生きています。

町制施行50年を迎える一つの節目の今年、今の上ノ国町が形作られたの歴史の積み重ねを改めて見つめ直し、子や孫に伝えていくことが必要とされています。

- 1473年 信廣が勝山館に館神八幡宮を建立（現在の「上ノ国八幡宮」）
- 1485年 山城の国一揆
- 1492年 コロンブスが新大陸発見
- 1494年 信廣が勝山館で没し（享年64歳）、夷王山に葬られる。
- 1514年 信廣の子・蠣崎光廣が居城を勝山館から松前の徳山館へと移す。
- 1551年 天の川が和人地とアイヌの領地の境目となる
- 1560年 桶狭間の戦い
- 1573年 室町幕府滅亡
- 1582年 本能寺の変、織田信長没する
- 1590年 小田原征伐（豊臣秀吉の全国統一）
- 1593年 蠣崎慶広が秀吉から蝦夷島主として承認され安東氏から独立
- 1598年 豊臣秀吉、伏見城で没する
- 1599年 信廣から5代目、蠣崎慶広が氏を「松前」と改める
- 1600年 関ヶ原の戦い
- 1603年 江戸幕府成立
- 1604年 慶広が徳川家康に拝謁し、松前藩初代藩主として認められる